

2011年度 活動方針

総会で承認された2011年度の活動方針は、「広域行政の推進支援」「ファルマバレープロジェクトの推進支援」「コンベンション機能の促進」「富士・箱根・伊豆を束ねた広域観光の促進」の4テーマ。各テーマの概要は次の通りです。

◆◆◆広域行政の推進支援

県東部の市町が競争力あるビジョンを打ち出し、その実現にふさわしい規模となるためには、共通の認識と広域的視点が欠かせない。とりわけ、沼津市と三島市には積極的な共同歩調とリーダー役を期待したい。サンフロント21懇話会は両市を中心とした広域行政の実現に向け、経済団体などと協調し、ランド・デザインの作成に着手する。同時に各市町と連携し、具体的な動きを導き出すための共通の議論の場づくり、住民への啓もう活動に取り組む。

◆◆◆ファルマバレープロジェクトの推進支援

県は2011年度、さらなる研究開発の促進と健康産業の振興・集積に向け、ファルマバレープロジェクトの第3次戦略計画（2011年度～20年度）をスタートさせる。具体的にはものづくり（医療機器など地元企業の研究開発・事業支援）、人づくり（医療人材・産業人材の育成）、まちづくり（医療健康産業クラスター形成など）、世界展開の推進（世界への販路開拓など）が想定される。サンフロント21懇話会は地域産業活性化の支援、沼津市の医療産業都市構想などを含め、ファルマバレープロジェクトを支援していく。

◆◆◆コンベンション機能の促進

2010年11月、東部コンベンションセンター整備事業に関わる企業グループと県、沼津市が基本協定を結び、展示イベント施設、コンベンション施設などの建設に向け、一步を踏み出した。サンフロント21懇話会はコンベンション事業を県東部の未来を切り開く地域戦略として位置づけ、各市町に重要性を訴える。アフターコンベンションなどコンベンションの持つ多様な事業性を活用する方策を検討、協議する。

◆◆◆富士・箱根・伊豆を束ねた広域観光の促進

富士山静岡空港を伊豆への誘客につなげるには、広域的な視点で観光戦略を構築する必要がある。サンフロント21懇話会は静岡・山梨・神奈川3県の広域連携の強化を目指す。特に静岡・山梨両県の官民でつくる日本富士山協会（事務局・山梨県富士吉田市）に協力し、環富士山地域の連携強化を支援する。「富士山一周ドリムウオーク」や、伊豆の一体感醸成に向け、価値ある地形・地質遺産の保全、活用を目指す「ジオパーク構想」など既存事業の周知支援を継続し、一段の観光交流を促進する。